

取組：研修協力校における取組や優良実践事例の普及による学習指導要領に沿った授業改善の推進

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

義務教育段階では、英語教育推進状況において地域間格差がみられる。言語活動の質を高め、学習到達目標に基づいた指導と評価を行うことと、児童生徒の英語力向上を図る必要がある。高等学校段階では、生徒の実態を踏まえて各校で定めた学習到達目標に基づき、指導と評価の一体化を図ることで生徒の英語力を育成する必要があるが、その優良事例や具体的手法に関する情報が不足している。

Plan

■取組計画

- ・研修協力校における研修（小・中・高）
- ・英語教育実践リーダーの育成と実践の普及（小・中）
- ・英語教育充実に資する研修会の開催（小・中・高）
- ・実践事例の発信・普及（小・中・高）

■体制

- ・外部専門機関との連携（大学教授）
- ・教育事務所、教育センター、市町村教育委員会との連携

Do

■事業

- ・英語教育実践リーダー事業（小・中）
- ・市町村教育委員会サポート（小・中）
- ・中高教員相互派遣研修（小・中・高）
- ・研修協力校における研修（小・中・高）
- ・英語教育充実研修（小・中・高）
- ・オンラインを活用した指導力向上研修（高）

■英語教育実践リーダーの育成と実践の発信（小・中）

- ・各地区がチームで、オンライン上で指導案検討や発信動画の作成を行った。
- ・実践は、Googleサイトを活用し、県内教員と共有を図った。

■専門学科設置校における研修（高）

- ・研修協力校に指定した専門学科設置校では、「生徒の学習の動機付け」「英語の授業は英語で」「ICTの活用」「指導と評価の一体化」をテーマとして、外部講師の指導の下、年4回研修を行った。（最終回は公開授業研究会）

Check

■成果指標に基づく検証結果

（数値は「R3英語教育実施状況調査」速報値）

【生徒の英語力】中38.9%（R1 34.8%）高46.9%（R1 44.3%）

【生徒の英語による言語活動の割合】

中70.3%（R1 78.4%）高50.5%（R1 56.5%）

【教師の英語力】中35.6%（R1 25.2%）高73.1%（R1 71.3%）

【教師の英語使用の割合】

中72.5%（R1 71.6%）高46.5%（R1 54.8%）

Action

- 英語教育推進リーダーが小中合同のチームで実践研究を行ったことで、小中連携の視点を踏まえて指導改善につなげることができた。
- 研修協力校の研修では、管理職に研修の様子を見てもらうことで、英語科教員が個々に授業改善にアプローチするのではなく、チームとして取り組む雰囲気を醸成することができた。
- 同時双方向型の研修会では、ブレイクアウトルーム等の機能を活用することで質疑応答や研修参加者同士の情報交換を、オンデマンド型の公開授業研究会では、アンケートにより質疑応答の機会を設ける等により、研修内容を深めることができた。

成果の普及

- Googleサイトを活用した英語教育実践リーダーの授業動画等の発信（限定公開）
- 公開授業研究会の様子をオンデマンド配信
- オンラインを活用した指導力向上研修の成果発表、配信（R4）